

コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、地域経済にも大きな影響が及び、地方財政は、来年度においても引き続き巨額の財源不足が避けられない厳しい状況に直面しています。

地方自治体では、コロナ禍への対応はもとより、地域の防災、減災、雇用の確保、地球温暖化対策などの喫緊の課題に迫られているほか、医療、介護、子育てをはじめとした社会保障関係経費や公共施設の老朽化対策費など、将来に向け増嵩する財政需要に見合う財源を確保するため、地方税制の充実、確保が強く望まれています。

よって、政府は、令和4年度地方税制改正に向け、下記の措置を講じるよう強く求めます。

記

1. 令和4年度以降3年間の地方一般財源総額については、経済財政運営と改革の基本方針2021において、令和3年度地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保するとされているが、急速な高齢化に伴い社会保障関係経費が毎年度増大している現状を踏まえ、他の歳出に不合理なしわ寄せがなされないよう、十分な総額を確保すること。
 2. 固定資産税は、市町村の極めて重要な基幹税であるため、家屋、償却資産を含め、制度の根幹に影響する見直しを断じて行わないこと。なお、生産性革命の実現や新型コロナウイルス感染症緊急経済対策として講じた措置は、本来、国庫補助金などにより国の責任において対応すべきものであるため、現行の特例措置は今回限りとし、期限の到来をもって確実に終了すること。
 3. 令和3年度税制改正において土地に係る固定資産税について講じた、課税標準額を令和2年度と同額とする負担調整措置及び自動車税、軽自動車税の環境性能割の臨時的軽減については、令和3年度限りとすること。
 4. 炭素に係る税を創設又は拡充する場合には、その一部を地方に税源配分すること。
- 以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和3年9月27日

枚方市議会議員 有山正信

〈提出先〉

内閣官房長官

総務大臣

財務大臣